

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄返還交渉資料第4巻

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-07 キーワード (Ja): 総理訪米, 米国人記者との会見, 総理, 愛知外相, ニューヨーク・タイムズ, 愛知外相・ロジャーズ長官会談, 統合局長・スナイダー会談, 記者会見, 外相, 官房長官, 米国下院歳出委員会対外活動分科委非公開聴聞会, スナイダー国務省日本部長 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43630">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43630</a>

蒙知大臣認記式後の今見



○  
○  
○  
○

北米課長

愛知外務大臣の初記者会見要旨

日時 昭和43年11月30日  
午後6時55分—7時15分

情文局報道課

大臣 はからずも、こちらに参ることになつて、いろいろな意味で何かとお世話になる。誠心誠意努力したいと思う。御協力願いたい。

(問) いろいろと大臣を歴任されたが、今度の外相御就任の感想について。

(答) 一番緊張した。当面の問題も多いし一番難かしいところだと思う。今日の初閣議後の総理の談話でも外交問題が重点になつており、“沖繩の祖国復帰に全力を尽すとともに自由を守り平和に徹する基本方針の下に、アジアと世界の平和と繁栄に貢献し、国際社会の重要な一員としてのわが国の責務を果たしたいと考える、”といわれている。文字どおり大変な責任で私も身命を賭してやらなければならない。

(問) 沖繩返還交渉継続協議再開に際しての姿勢なり基本的考え方について。

(答) 私が今度任命された背景は、一口に言えば総理外交の展開ということで、例えば沖繩問題にしても、総理が来秋渡米し、みのある結果を作りたいと本当に張切つておられる。私はその目標に至るレールを敷くようにひたむきな努力をしなければならぬと思う。今度の三選は佐藤政治の最後の仕上げと考えると、総理もこの沖繩問題をその仕上げの一つとしておられるので、この願望がレールの上に具体的に成るよう努力するのが私の仕事ではないかと思う。佐藤総理のヴィジョンを具体的に積上げて行く技師の役割ではないかと思う。沖繩問題について言えば、対決や争いによつて解決するのではなく、日米間の友好親善相互理解の上に立つて実りのある結着をつけるということが本旨と思う。

こちらとしても自主的な立場を充分作り上げて行き、先方の考えを充分掌握しその傍ら日本国民、沖縄住民の考え方を充分わきまえて、これをルールに乗せるようにしたい。総理が現に白紙と言っているのを就任後僅か数時間の私が何かいうのは、責任者として軽卒であり、おこがましい。外務省の今までの研究や三木前外相の苦勞されたことを充分掌握し、党内の意見もよくとりまとめなければと思う。国民の理解を訴えるためには党内のコンセンサスが自分の支えとなるので、努力して行きたい。

(問) 交渉に入る前に基地の態様についての日本側の態度をきめるつもりか。

(答) 基地の態様といつても、アメリカの政權も変わるしベトナム情勢の変化もあり、新段階に向つて真剣に慎重に考えを固めて行かなければならないので、早急に意見を申し上げるべきではないと思う。

(問) いわゆる三木外交を踏襲するのか。

(答) 三木氏は外相在任中佐藤総理に対して献身的な協力をされ、大きな業績をあげておられ、かねてから私の尊敬しているところだ。総裁選立候補後のいろいろの発言は、campaign という別の角度からみるべきである。日本の国力からみて、あるいは自民党がひきつづき政權を保持していることからみても、政策の継続性は外交問題で特に重要である。この際、政策の違いをうちだすことは考えていない。

(問) アジア・太平洋構想はどうか。

(答) 三木氏のアスパックやポスト・ベトナムの問題(例えば国際基金)についての考え方には、自民党の一員として賛成して来た。これらに対する基本的な考え方は同じである。これらを establish する範囲等は今後考えていかねばならぬが……。

(問) 三木氏の沖縄問題に対する考え方は総

裁選のための *campaign* にすぎないというのか。

(答) 言葉や表現のニュアンスにちがいがあつたかもしれないが、考え方に大きなちがいはないと思う。

(問) 総理の訪米を実りあるものにするためには、そろそろ政府の態度をはつきりきめて、米側と交渉に入る必要があるのではないか。

(答) 就任したばかりなので、今すこし時間がほしい。*final target* は総理の訪米であるから、それに合わせるよう対外・対内折衝をやる必要がある。

(問) 総理訪米前に外務大臣の訪米はありうるか。

(答) ありうる。もつとも明後日というような性急な考えはないが。

(問) 11月20日からジュネーブで日米会談があり、1月早々にも再開がみこまれて

いるが、外務大臣の考えはどうか。

(答) 日米経済関係は公正な *competitor* の立場で推進すべきで、相互にもつとフランクに話し合う必要がある。日本としては主張すべきことは主張し、困ることは相手を充分説得する努力をつづけなければならない。外務省のみならず通産省等とも充分協議して。

具体的な *issues* については、まだここで明確に述べる勇気はない。ゆずるべきことはゆずり、公正に双方が繁栄するというのが基本である。

(問) 先程政策の継続性ということをいわれたが、核防条約について、三木氏は年内に署名、次期通常国会で批准、ということをいつていたがどうか。

(答) 政府の態度は、はじめはそうだったが、その後日本のみの理由だけでなく国際情勢もからんで、早期にやつてしかるべきかど

うかという疑問もでて来たのではないか。  
 条約の趣旨は結構であるが、現実の国家間の問題を洞察しながら、政府の態度を決定していく必要がある。年内云々はもう少し慎重に考えたい。

(問) 対米関係について、ニクソン次期大統領はアジアの安全保障に果す日本の役割を期待しているが、これに対し日本としてどう対処するか？

(答) ニクソン氏の考えは昨年 Foreign Affairs 誌に詳しく書かれているので、私自身たんに読んでみた。そこに書かれているニクソン氏の考えはそれなりに理解はできるが、だからといって日本がそのとうりになるのでは、それは外交ではない。例えば ASPAC に軍事面での期待を持つのであれば、この考えに私は賛成できない。仮にニクソン氏がそういう考えであるとしても、日本としては、平和憲法の精神を堅持していかなければならない。

(問) 日中関係についての基本的考えを伺いたい。

(答) よく言われることだが、日本の隣りにあれだけの大きな国土と人口を持つた国が

あるという客観的事実は無視できない。従って向う側がわが国を敵視しないことを期待するわけだが、そういつていても仕方がないので、当座は政経分離という線で行って行くことに尽きる。

(問) 沖縄の問題で国民の声を聞く前に党内の意見をまとめなければならぬといわれたが、三木氏の考えはとにかくとして、前尾氏の考えとは相当に異なるのではないか。

(答) 世間では党内で意見が分かれているような印象を受けているようなので、前外務大臣であつた三木氏や大平氏等の意見も充分聞いてみるつもりである。

(問) 前尾氏の「本土並みでなければ、返還の時期が遅れても仕方がない」という考え方についてどう考えるか。

(答) その辺のところは、前尾氏の話をよく聞いてみなければ、何ともいえない。

(問) 党内の意見とはどういうものを考えて

おられるのか。

(答) 党内には外交調査会もあり、またリーダー格の人物の意見もある。沖縄問題は、大きな民族的問題なので、意見を聞いてその通りに行かないにしても、いろいろな考え方があるということを、ルールを敷く技師としては当然承知しておかねばならない。

(問) 時期尚早かも知れないが、外国へ行かれる予定は。

(答) 就任わずか数時間後なので、もう少し猶余を下さい。

(問) 大臣は任命後の会見で沖縄及び安保問題の二点を挙げられたが、安保は改訂すべきと考えられるか、それとも、このまま行くべきか。

(答) 要は、安保体制を堅持すること、現体制を堅持することである。それがどういう形をとるか、自動延長という考え方も出ているが、総理は、それを政府の方針であるとは、未だ発表されていない。これは、いずれ明らかにすることになる。

アメリカ局長  
参事官  
北米課長

昭和三十一年三月三日 新米相を罷免の後の意見申

ニクソン新政権と日米関係

米国はわが国にとって最大の友邦であるが、米国にとってもわが国はアジアにおける最も重要な友邦であり、<sup>も重要な友邦</sup>両国間の関係は相互信頼と協力の基礎の上で築かなくてはならない。日米両国はともにアジアの安定と平和の確保を外交の基本目標としていっているので、~~素直に~~意見交換し、つつ協力し合つていくのが当然である。

この考え方は米国の<sup>ひは</sup>戦後今日に至るまで民主共和両党

外務省

を通じて超党派的支持を受けるべきである。ニクソン新政権の登場によつてもこのような米国の対アジア政策、或いは対日政策の基本は~~東洋は昔は~~ <sup>は変わらないと思ふ。</sup> ~~シンドは~~ ~~チカウヤ氏の~~ ~~最近の発言~~ ~~は~~ ~~も~~ ~~明~~ ~~か~~ ~~は~~ ~~ある。~~ わが国としては、~~チカウヤ~~ ~~の~~ ~~新~~ ~~政~~ ~~権~~ ~~と~~ ~~も~~ ~~緊~~ ~~密~~ ~~な~~ ~~接~~ ~~触~~ ~~を~~ ~~は~~ ~~か~~ ~~り~~、相協力して二国間の諸懸案を解決することと、アジア及び世界の安定と平和のために寄与したいと考える。

外務省



アメリカ局  
参事官  
北米課長

電

沖繩内題

昨年、佐藤・ジョンソン共同声明の基礎の上になつて  
沖繩施政権返還の早期実現のために、米國政府と  
積極的に詰合して行く決意である。

ニクソン氏も昨年の日米首脳会谈の效果を尊重  
する旨述べてあり、米國の政權交代による沖繩内題  
に対する米國の政策に変更はないと考へる。

外務省

施政権返還後の基地のあり方には、國際情勢  
の後、軍事技術の進歩、世論の動向等を考慮しつゝ、  
慎重に検討して行きたい。

沖縄州政府の対沖繩施策は、屋良朝期主席判官  
に付ても要ることはない。政府が新憲法を建設的になし、  
大令詰合して、現地住民の意向が反映するようには心掛ける。  
あることを期待しつゝ、吉田

米國との協力の下に沖繩本土間の格差是正を含む一体化  
の促進、沖繩住民の自治の拡大と福祉の向上を期し、その

外務省

了メリカ局  
参事官  
安全保障課長

北米課長

基地問題

米軍基地保障条約に基づき、我が国に駐留する米軍基地の使用を施設、区域は、日本の安全に直接寄与し、また日本の安全と不可分な極東の平和と安全に重要な役割を果している。また、同条約の目的達成に遺憾なくしめるよう常にその内滑り運用に意を用いることは当然であり、特に基地問題など直接周辺住民に与える影

外務省

先年米軍基地の基礎問題  
米軍基地保障条約の成立の因は、一カセの年を満了する、七〇年  
以後は、これを維持するべきである。

不満の解消に努力して行く所存である。  
原潜B52等の問題について、理地住民の不安を解消するよう、米政府の努力に期待すると共に、琉球政府、意向も勘案して、事態の推移を見守って行きたい。

外務省

被害の大小の問題については、わが国の安全保障確保を以て  
まず、基地周辺住民との摩擦を最少限に止めよう日米双方  
の理解の上で合理的解決をはかるべく努力する考えである。

(注) 現在米軍がわが国において専用と平時使用している  
施設は、この地域は一四〇件、二二〇平方キロメートルである。これを  
平和条約発効時の昭和十七年当時の施設は五城二八二四

外務省

件、約一三五〇平方キロメートルと比較すると件数は十分の一  
面積は十分の一に減少したことになる。

外務省

秘  
無期限

アメリカ局長  
参事官  
北米課長

露米大使の記者会見の要旨  
発言の要旨

43. 12. 3.  
米. 北.

12月3日報道課より 同日の記者会見の  
要旨を露米大使の下記のとおり述べられた

理由を述べられた。  
記

1. (米大統領就任式について)

「先般は各国の米大使の出席と... 形式  
簡素ながら希望はしている。わが国

と(米大統領の出席)は予定外である。」

2. (「沖縄米軍問題」に関して 特使をアメリカ  
へ派遣する事か否か、この点に就いて)

オックスと(2)

「米大統領のオックスと(2)は、  
先方が落着くまで、米軍の撤退を希望

を表明している。一方「特使」として  
送られることについては、